

第1号議案

平成24年度事業活動報告

特定非営利活動法人とともに

1 事業の成果

平成24年度は、開設2年目の就労支援事業・グループホーム（GH）事業の運営安定化と、地域活動支援センターの運営を当法人から他の事業所へスムーズに移行するための準備を行ってきた。

就労支援事業・GH事業のどちらも利用者が大幅に増加し、厚生病院や自立支援協議会との連携で地域で活動する輪の広がりを作ってきたといえる。ケアホーム・法人事務所建設を実現するため、町福祉課や町内会役員との対話を重ね、地域が元気になる「わっくわく事業」として計画を進めている。地域高齢者と協力しあうことのニーズを実感した。

2 事業の実施に関する事項（定款の事業名）

（1）特定非営利活動に係る事業

①地域住民による「障がい者と共に暮らすまちづくり」事業

活動実績なし

②障害者の生産支援活動、文化・芸術支援活動 ③障害者の社会参加にむけた支援活動、及び障害者自立支援法に基づく事業

●障がい者就労支援事業所ワークショップようてい の運営（個別事業報告1参照）

●グループホームよろこび の運営（個別事業報告2参照）

●倶知安町地域活動支援センター タッチ の運営（個別事業報告3参照）

④地域で暮らす障害者の日常生活、住居等の支援活動

●塩谷福祉会運営のグループホーム2住居「みまた」「ここに」を4月1日から当法人の運営に移行した。

●ケアホーム開設へ向けて準備を始めた。（個別事業報告4参照）

⑤精神疾患や障害に関する理解と交流、広報活動

<講演会・研修会>

●みんなで学ぼうシリーズ （下表一覧参照）

毎月定例11回開催

番外編1回

拡大版は、夏と春の計2回開催

●第9回こころのルネッサンス in くっちゃん 後援（H24.10.6～7）

●精神疾患学習会 「精神疾患について精神科医と語ろう」全3回

講師：土田正一郎氏 会場：中小企業センター 対象：支援員、職員

第1回 「うつ状態について」 2月16日（土）

第2回 「精神病（統合失調症など）」 2月23日（土）

第3回 「認知症を中心に」 3月16日（土）

●「コミュニケーションのサポートを学ぼう」SST 3月20日（祝日）ホテル第一会館

※ みんなで学ぼうシリーズは毎月開催することができ、講師も精神科医のほかに、看護師（精神保健福祉士）の協力を得ることができた。

※ 事業活動計画に予定していなかったが、2月～3月にかけて4回の学習会を開催したため、「WRAP クラス」の開催にはいたらなかった。

※ みんなで学ぼうシリーズ

	開催日	テーマ	講師	参加者
①	H24.5.29 (火)	サバイバル。これだけは知っておけ 役に立つかもしれない制度・資源	黒木 満寿美	26人
②	H24.6.28 (木)	えっ～、看護師さんがうちに来る。 何しに？ -訪問看護のはなし-	互 優 Ns	32人
③	H24.7.18 (水)	これって、てんかん？ それとも かんてん？	宇土 仁木 Dr (土田 Dr 代行)	20人
番外編	H24.8.10 (金)	コンスタについて知っておこう！	土田 正一郎 Dr 大倉 隆(ヤンセン)	6人
④	H24.8.20 (月)	宇土先生が語る依存症 頼りがいがないのはよい便り (No news is good news)	宇土 仁木 Dr	22人
⑤	H24.9.18 (火)	摂食障害「食べても 止まらない」	土田 正一郎 Dr	26人
⑥	H24.10.17(水)	人格の偏り -変わるものと変えるもの-	土田 正一郎 Dr (再び土田です)	17人
⑦	H24.11.19(月)	「意識しよう、意識障害！ 現実世界との付き合い方」	宇土 仁木 Dr	17人
⑧	H24.12.17(月)	「認知しよう認知症。入門編 新説 豊島型 認知症の全て」	豊島 邦義 Dr	14人
⑨	H25. 1.22 (火)	「精神障害と糖尿病の甘～い関係」	土田 正一郎 Dr	28人
⑩	H25. 2.18 (月)	「History of Hysterie ～ヒステリーについて～」	土田 正一郎 Dr	18人
⑪	H25. 3. 26(火)	「診察室で考えていること」 聴き納め？	土田 正一郎 Dr	41人

※ みんなで学ぼうシリーズ拡大版スペシャル

	開催日	内容	講師	会場	参加者
①	H24.7.21 (土)	夏の陣 いか食べた会	ひだクリニック	厚生病院 こころの 総合支援センター	約60人
②	H25.3.10 (日)	春の拡大版スペシャル 3回目 ①倶知安再発見 就労支援 ②町医者になってみえ てきたこと	メンタルクリニック 秋田駅前 稲村 茂 先生	第一会館 1階	約30人 (参加者 19)

<広報活動>

●通信ともに の発行

年3回発行の計画であったが、年2回しか発行できなかった。

	発行日	おもな内容
第8号	8月29日	総会報告、ブログ開設のお知らせ、活動報告、就労支援事業の部体制
第9号	3月8日	理事長の今年の抱負、活動報告、寄付金報告、知って得する障がい福祉制度

●パンフレット改訂

5月1日第4版改訂発行し、法人紹介の内容充実に努めてきた。

「障がい者就労支援事業所ワークショップようてい」の事業所パンフレットを5月初版作成。

ワークショップようていでどんなことをしているのか、わかりやすい内容に心がけた。利用増に貢献した。

●ブログ開設 6月6日より

さらなる広報活動を開拓するために、法人のブログを開設した。

今年度は77件の更新をし、ブログを閲覧した数は3,116人にのぼった。

※ 主な内容

- ・ワークショップようていの活動風景
- ・ワークショップ製作商品の紹介
- ・ともに主催の研修会活動
(みんなで学ぼうシリーズ、就労支援フォーラム、精神科医と語ろう、コミュニケーション講座など)
- ・研修会レポート…みんなで学ぼうシリーズは内容をまとめて掲載
- ・新年のあいさつなど

※ 通信ともにでは紹介しきれなかった活動内容をリアルタイムで発信できた。

一方でブログ掲載が滞ることもあり、伝えるためのレベルアップとともに今後の課題である。

●ホームページ作成

24年度中には作成できなかったが、基本構想やレイアウトなど理事会で検討を重ねてきた。

⑥地域内外の福祉関係団体などとの連携活動

●羊蹄山ろく地域自立支援協議会参加 毎月定例会に出席。会場：保健福祉会館ほか

- ・相談支援事業担当者会議
- ・グループホーム、ケアホームを創る懇話会（1月で終了）
- ・就労支援部会
- ・地域活動支援センター夢の匠サポート部会

●羊蹄山麓障害程度区分認定審査会に委員を推薦し審査会に出席した。（隔月）

⑦前各号の事業に附帯する事業 なし

(2) その他の事業 なし

3 組織の運営安定化、拡充活動

(1) 理事会の開催

毎月1回定例で12回開催した。

各事業報告や検討事項の提案の定例化で法人運営の基礎ができた。

(2) 正会員25人、賛助会費個人会員50人、団体会員3団体を目標にした。

- ・正会員は1人新規加入し1人脱退。のべ19人で3月31日現在18人。
- ・賛助会員は1団体35個人の入会で、目標には届かなかったが新規加入が8人あった。

・法人として意識的な会員拡大の取り組みが不十分だった。

(3) 寄付金は50万円の目標に対し、個人のべ15人300,640円、3団体483,133円、合計783,773円であった。

目標額は上回ったが、寄付をいただいた人数が昨年から増えてなく、広める活動の取り組みが弱かった。

(4) 助成金活用

3件の助成金（寄付金）申請を行い、3件の助成金（寄付金）交付決定および入金があった。

企業の募集名称が寄付金となっているため、会計処理上上記（3）寄付金に1件仕訳している。

事業名	交付金額 (購入金額)	購入物品	交付決定月日 購入月日	目的
ジョンソン&ジョンソン社会貢献委員会（寄付金扱い）	450,000円 (872,150円)	カラー複合機 広告黒板ほか	10月4日 12月7日	障がい者の工賃向上に貢献する広報活動
北海道労働局「両立支援助成金」	400,000円	なし	2月20日	子育て短時間勤務支援
共同募金「施設活動支援事業」	140,000円 (175,000円)	簡易水洗トイレ (車庫は不採用)	H25年4月 15日（未）	畑での作業環境の改善 (休憩場所と農機具保管)

【個別事業報告 1】

平成24年度 障がい者就労支援事業所 ワークショップようてい 事業活動報告

1 事業の成果

平成23年4月1日より、ワークショップようていは「倶知安町地域活動支援センター」から就労移行支援および就労継続支援B型のサービスを提供する「障がい者就労支援事業所多機能型」へ全面移行し、二年目となる。

平成23年度は、移行一年目ということで、「就労への助走段階」として位置づけていたが、平成24年度は、より職場に近い環境で作業訓練を行っていかうという視点で、部門制を導入した。これにより、利用者が自分の希望する職種により近い環境で作業訓練することができ、自分がどんな作業を、誰に聞けばいいかなどの、報告、連絡、相談もわかりやすくなったと思われる。また、販路拡大にも力を入れたことで、委託販売先も増えた。自分たちで作った物が売れたことで、また次の物を作ろうという意識が生まれ、それが通所日数の増加、新規利用者の増加へと繋がった。また前年度はできなかった送迎サービスを実施することができたことも、平成24年度の大きな成果だったと考える。

2 平成24年度利用実績

サービス種類	就労移行支援		就労継続支援B型	
	6人		14人	
平成24年度	開所日数	延べ利用者数	開所日数	延べ利用者数
	(日)	(人)	(日)	(人)
4月	20	58	20	213
5月	21	58	21	227
6月	23	55	23	281
7月	22	58	22	259
8月	22	57	22	296
9月	19	50	19	270
10月	23	61	23	281
11月	24	52	24	258
12月	21	54	21	202
1月	18	45	18	148
2月	19	46	19	182
3月	20	58	20	192
年累計	252	652	252	2809
1日あたり平均利用者数(人)		28		11
月平均開所日数(日)		21		21

- 就労移行支援は定員6人に対し契約者数が4人。1日あたり平均利用者数2.8人、1人の月平均利用日数19日となった。
- 就労継続支援B型は定員14人に対し契約者数が21人から25人に増え、1日あたり平均利用者数11人、1人の月平均利用日数10日となった。

- “作品作り” から、“売れる商品作り” への意識改革をおこなってきた。
販路拡大により、自分で作った商品が店頭に並び、売れることで、次に何を作ろうかというモチベーションの向上に繋がった。
- 送迎車の導入により、町内の遠方に住んでいる利用者の通所が増えた。特に、冬の通所は天候の良し悪しが大きく影響されていたので、送迎サービスは利用者からも良い評価を得られた。
- 利用者が増えたことで、町村から支給される訓練等給付費も増加した。また利用者増加が経営安定化に貢献している。

3 職員の配置状況（平成 25 年 3 月 31 日現在）

	障がい者就労支援事業所 ワークショップようてい		
	職種	就労移行支援	就労継続支援B型
1	管理者	常勤・兼務	
2	サービス管理責任者	常勤・専従	
3	就労支援員（移行） 生活支援員（B型）	常勤・兼務	
4	職業指導員	常勤・兼務	
5	生活支援員		常勤・専従
6	職業指導員	非常勤・兼務	
7	職業指導員（移行） 工賃達成指導員（B型）	非常勤・兼務	
8	生活支援員	非常勤・兼務	
9	生活支援員	非常勤・兼務	
10	生活支援員	非常勤・兼務	
11	事務員	非常勤・兼務	

4 事業活動内容

①就労のための研修

- 精神障がい者ジョブガイダンス 10月3回 厚生病院 利用者3人
- 職場実習開始 2月18日から ニセコ宿たびつむぎ 清掃業務 利用者2人
ほかの就労支援事業所と共同体制で実習を行った

②就職活動開始

- 就労移行1人、就労継続B型2人がハローワークへ求人登録する。

③販売活動

- 後志総合振興局、保健福祉会館、絵本館、役場で野菜販売
7月2日から週2回ペースで毎回 利用者1～2人参加
- 委託販売開始
 - ・札幌駅「元気ショップいこーる」 11月24日 利用者2人と職員で初荷入れ
 - ・「ニセコ宿たびつむぎ」 12月末から

- ・「ホテルようてい」 12月末から
- ・「松塚家具店」 1月15日から
- ・ひらふスキー場のレンタルショップ「ニセコリゾートサービス」1月25日から
- 倶知安町福祉まつり 8月26日 利用者12人
- 京極町ほかほか祭り 10月28日 利用者2人
- ニセコ町「食と農でまちづくり 安心安全マルシェ」 11月18日 利用者2人

④研修会参加

- みんなで学ぼうシリーズ 毎月 喫茶陽だまり 利用者毎回3~4人
- 精神保健協会総会・講演ライブ 6月30日 利用者7人
- みんなで学ぼう夏の陣、春の陣 7月21日、 利用者2人
- こころのルネッサンス 10月6日・7日 利用者1人

⑤交流活動・レクリエーション

- 家族会、つばきクラブ合同お花見&焼肉会 6月8日 合計約40人
- 三作業所交流会（余市希望の家、前田の家）泊村パークゴルフ 8月7日 利用者6人
- 温泉1泊旅行 ニセコプリンスホテル ひらふ亭 11月2日 利用者7人
- クリスマス会 山岸宅 12月24日 利用者19人

⑥地域との交流

- たんぼぼ家族会合同健康づくりミニ講座 4回実施 利用者10人~14人

⑦見学受け入れ

- 真狩高校 学生1人、教諭1人、サポートセンター職員1人 12月12日
- 札幌高等養護学校 教諭2人 1月17日

5 就労支援事業

<就労支援事業会計報告>

	部	科目	金額	摘要
収入	農業部	売上（農業）	391,591	野菜販売
		売上（除雪）	634,003	除雪
	事務調理部	売上	971,446	給食、おかず販売
	製造部	売上	196,658	手工芸品、廃油石けん、牛乳パック販売
	その他	売上	94,545	フリマ、引越し手伝い、宅配便取扱
		請負委託	916,752	調理、工務店請負作業、高齢者見守り
		収入計	3,204,995	
支出	農業部	材料費（農業）	256,080	種苗、肥料、農機具、維持点検費
		材料費（除雪）	320,924	燃料代、機械点検修理代
	事務調理部	材料費	1,006,321	食材、調理器具、消耗品
	製造部	材料費	225,530	手工芸材料、ミシン
	その他	材料費	94,961	宅配便送料、商品開発費
	工賃	工賃	889,676	のべ工賃支給 277人
	交通費	交通費	114,375	のべ交通費支給 33人
		支出計	2,907,867	
収支差額			297,128	
前期繰越金			193,442	
次期繰越金			490,570	

●工賃平均月額：889,676円÷277人=3,211円

- 平成23年度工賃平均月額3,831円に対して減額となった。
これは、今年度収入見込みが少なくなると予想し、時給見直しを行い作業内容にかかわらず、一律時給100円と変更したことが影響したと考えられる。
- 除雪の請負契約件数が増え、また販路拡大で売り上げ収入が増えたことで大幅な収入増となり、繰越金額増になった。
- 次年度は工賃単価の考え方を整理し、働く意欲につながる、頑張りがいがある工賃の仕組みを検討することが課題である。

【個別事業報告 2】

平成 24 年度グループホームよろこび
事業活動報告

1 事業の成果

平成 24 年 4 月から塩谷福社会運営のグループホームみまた・ここにが当法人に委譲され 1 年経過した。2 住居増えたことで必要職員数の新規採用を行い、提供するサービスの維持に努めた。退職や産休で職員の入れ替わりはあったが、欠員せず運営できている。

また、住居担当制に変更し利用者とのかかわりを強める体制にしたことで、定期的なアセスメントの固定化がされてきた。厚生病院精神科の医師や関係機関との連携を日常的に行うことで、4 月から利用者のケース会議が定例化した。また必要時には家族も参加するケア会議を行い、利用者本人も主体的に自分の生活を考える支援に結びつくよう努力した。継続した適切な支援を行うためには関係機関との連携が今後も必要不可欠と感じた。

また、入居者 2 人が 8 月からアパート暮らしを始め、自立するという目標を達成できたことは、支援者だけでなく他の入居者への励みにもなっている。

年度初めに住居増により経費がかさみ経営は厳しかったが、除雪経費見直しや利用者の実費負担内容の見直しなどを行った結果、年度末ごろに経営の安定が図られてきた。

2 グループホーム住居数と利用状況について（平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月）

	えがお	よろこび	つばさ	みまた	ここに	利用者数	空室（定員）
4 月	3 室中 2 人	5 室中 5 人	3 室中 3 人	7 室中 6 人	4 室中 3 人	19	3 (22)
5 月	3 室中 2 人	5 室中 5 人	3 室中 3 人	7 室中 6 人	4 室中 3 人	19	3 (22)
6 月	3 室中 3 人	5 室中 5 人	3 室中 3 人	7 室中 6 人	4 室中 3 人	20	2 (22)
7 月	3 室中 3 人	5 室中 5 人	3 室中 3 人	7 室中 6 人	4 室中 3 人	20	2 (22)
8 月	3 室中 3 人	5 室中 4 人	3 室中 3 人	7 室中 6 人	4 室中 3 人	19	3 (22)
9 月	3 室中 3 人	5 室中 3 人	3 室中 3 人	7 室中 6 人	4 室中 3 人	18	4 (22)
10 月	4 室中 3 人	5 室中 3 人	3 室中 3 人	7 室中 6 人	4 室中 3 人	18	4 (22)
11 月	4 室中 4 人	5 室中 3 人	3 室中 3 人	7 室中 6 人	4 室中 3 人	19	3 (22)
12 月	4 室中 4 人	5 室中 3 人	3 室中 3 人	7 室中 6 人	4 室中 3 人	19	3 (22)
1 月	4 室中 4 人	5 室中 3 人	3 室中 3 人	7 室中 6 人	4 室中 3 人	19	3 (22)
2 月	4 室中 4 人	5 室中 3 人	3 室中 3 人	7 室中 6 人	4 室中 3 人	19	3 (22)
3 月	4 室中 4 人	5 室中 3 人	3 室中 3 人	7 室中 6 人	4 室中 3 人	19	3 (22)

- 5月 1 人退去（男性）他事業所の施設へ
- 6月 2 人入居（男女各 1 人）退院者・地域生活者
- 8月 2 人退去（女性）アパートで自立
- 10月 2 住居の定員数変更（総定員は変わらず）
- 11月 1 人入居（女性）退院者

※ 入院中の方の見学・体験利用を適時受入れ、ケア会議での計画にそって定期的な体験利用も受け入れてきた。

定期的なケア会議を重ねての体験利用であったため、支援する側も利用者を理解するよい機会となり、利用者も安心して体験利用ができたと評価する。

3 職員の配置状況（平成25年3月31日現在）

	職種	勤務形態
1	管理者 サービス管理責任者 世話人	常勤・兼務
2	世話人（ヘルパー2級）	常勤・専従
3	世話人	常勤・専従
4	世話人（ヘルパー2級）	非常勤・専従
5	世話人（栄養士）	非常勤・専従
6	世話人	非常勤・専従
7	世話人（産休・育児休業中）	常勤・専従

- 毎週のように行われた病院でのケース会議や朝の職員ミーティング、運営会議で利用者の情報の共有化ができたことは、問題解決を適時に行い統一した支援につながったと評価する。

4 行事報告

- 5月23日 女性入居者で共和町「前田の家」の作業見学後、同施設で昼食。
「しまむら」「ダイソー」で買い物を楽しんだ。
- 7月10日 男性入居者での焼肉会。全員参加した。

平成24年度俱知安町地域活動支援センター タッチ
事業活動報告

1、運営状況

登録者数 2人

利用日数 数ヶ月に1、2回程度であった。

2、運営委譲の取り組み

「地域活動支援センター タッチ」は、それまでの「地域活動支援センター ワークショップ ようてい」が、平成23年4月1日より「障がい者就労支援事業所」へ移行したことにより、近隣町村からの要望を受け新たに開設した。

●地域活動支援センターは、

①羊蹄山麓近隣町村で、福祉サービスを利用したいが利用できていない人たちの居場所として、また社会との繋がりを持てるような場所としての役割。

②現在働いている人や、就職が決まった人たちが、仕事が終わった後や休みの日など、気軽に立ち寄り話ができるような場所、と位置づけていたが、就労支援事業所と併設されている環境ではこの機能が十分に活かされないため、自立支援協議会のサポート体制の下での運営に移行する方向で話し合いを進めてきた。

●自立支援協議会では、合同会社 MiMaTa が地活を運営し、平成25年度から新しい地活として開設することを目標に、円滑な運営移譲ができるようサポート部会を立ち上げ準備してきた。

●当法人としては、自立支援協議会での検討結果をふまえ、地活タッチの「地域での居場所」としての機能を維持しつつ、本年度から円滑な運営移譲ができるよう、合同会社 MiMaTa 職員を平成25年3月31日までの臨時職員として雇用し研修期間としてきた。

3、地域活動支援センター事業は平成25年3月31日をもって終了

平成25年3月31日をもって、「地域活動支援センター タッチ」の活動は終了し、「地域活動支援センター 夢の匠」へと、無事引継ぎが完了した。

●今後は、当法人による地活運営ではなくなったが、合同会社 MiMaTa が継続して地活運営できるようサポートを続けていくことが課題である。